

沖縄キリスト教学院大学FD委員会
(編・著)

2014年度 後期

学生による授業改善アンケートと
改善に向けての取り組み

巻頭言

第1章 授業改善アンケート結果の概要

第2章 科目・クラス別の数値及び自由記述

付 録 満足度調査報告

巻頭言

2014 年度 後期

学生による授業改善アンケートと
改善に向けての取り組み

沖縄キリスト教学院大学
学長 中原 俊明

1,この度、2014 年度後期分の学生による授業改善アンケートと改善に向けての取り組みがまとまり、公刊の運びとなったが、この膨大な作業に貴重な時間とエネルギーを割いて関わった教員・職員各位に感謝するものである。

2,2014 年度前期に改革が試みられたばかりだが、それは質的側面では「学生とともに授業を創る」、つまり一方的でなく、学生教師間の双方向で影響を与えあう (interactive) 関係の構築を目指しつつ、名称 (授業評価アンケート⇔授業改善アンケートへ) が変わり、量的側面では、質問項目増 (21⇔29) といった改善が実施されたといえる。基本的に、今回もそれを踏まえてまとめられた。

3,アンケートの質問項目は、学生自身の授業への取り組みの部分 (質問 6 まで) と学生から教師への授業評価の部分 (質問 7-19)、その他 (20-26)、そして自由記述部分から成り立っているが、全体を通読して、若干の感想を述べる。

4,「学生の自己評価に関する部分」と「学生による教員への授業評価」では、前回調査と比べて大きな改善 (平均値算出可能な 19 項目中 17 項目で改善) がみられたという (6 頁)。特にコアをなす教師の授業への評価や自身の達成度あるいは満足度 (質問 20-26) では、8 割前後のポジティブな数字が並び、また総合評価部分で前回はしのぐ数値となっている。これらが光の部分だとすれば、学生の自己評価中で前回より悪化した項目 (欠席回数や宿題・課題の取り組み状況など) は陰の部分として、今後の課題を示すといえる。

5,科目毎の自由記述による評価は、多様で興味深い。また、本学ならではの建学の精神をなすキリスト教は学生たちが、月曜礼拝でのメッセージに加え、カリキュラム中に位置づけられた関連科目の中で学ぶが、その基本的な理解からプラス、マイナスの方向に視野を広げる姿勢は大事である。つまり、キリスト教を世界史、英語圏、社会問題、人権問題、沖縄問題に関連づけたり、他の科目で出会い、言及されている諸種のトピックス、例えば、宗教の生む hate 問題、米国での KKK や黒人差別の歴史、枯れ葉剤、ストリートチルドレン、イスラム国問題、マララちゃんの発言、沖縄でのプロミスキーパーズの活動など、問題横断的な視点へ発展させるきっかけになるのではないか。

6,学生のコメントの中には、教師へ礼を失する内容や誹謗中傷もあったとされるが、これは授業評価への理解不足が考えられ、今後の課題を示している。

沖縄キリスト教学院大学

FD委員会委員

(2014年度 後期)

中原俊明 (委員長・学長)

金永秀 (委員・人文学部長)

A. David Ulvog (委員・英語コミュニケーション学科長)

金城繁正 (委員・企画推進課課長)

執筆者

照屋信治 (英語コミュニケーション学科 准教授)

沖縄キリスト教学院大学

2014年度 後期

学生による授業改善アンケートと

改善に向けての取り組み

第1章

学生による授業改善アンケート結果の概要

はじめに

2014年度前期より、授業評価アンケートを大幅にリニューアルし授業改善アンケートといたしました。以前の授業評価アンケートと比べて、教員、学生の取り組みに大きな変化があったと感じられます。

まず、記述欄の記入が格段に増えた点が挙げられます。授業の改善のためには、具体的な改善点を学生から出してもらうことが必要ですが、それが可能な貴重なコメントが多く寄せられました。これは、アンケート実施時間帯を授業後の10分から授業前の15分に変更し、授業アンケートに学生の授業の「ふりかえり」という教育的な意味をもたせたことによると思われる。従来は、授業終了後、1分程度でパッとアンケート用紙にマルをつけ、長めの休み時間を過ごしていた学生が多かったのですが、授業の一環として、授業中にアンケートを行うようにしたことが、このような大きな変化を生んだのだと思われる。

また、今回で2回目ですが、前回と数値を比べると、平均値が出せる質問19項目のうち17項目で改善したことが挙げられます。単年の変化ですぐさま教育効果を云々することはできませんが、良い傾向ではあります。

このような授業改善アンケートを全91科目、113クラスにおいて実施しました。投与された評価表は2547件に上りました。

今後とも、授業改善アンケートの活用により、授業改善が進むことを祈っています。

1 学生による授業改善アンケートについて

さて、今回で、二回目の授業改善アンケートですが、まず、「はじめに」で、その変更点や趣旨について再度確認したいと思います。

変更点は多岐にわたりますが、なによりも重要なのは、理念の上で、授業評価アンケートが教員の授業改良の参考資料となるようより工夫をほどこした点です。つまり、学生による授業評価が教員管理に流用されることなく、教員自身の自己管理、自己研鑽の材料となるように留意いたしました。また、学生たちとともに授業を創るという理念のもと、学生へのリプライを行うことで教員が学生とともに授業改善を行えるようにした点です。それで名称も従来の「授業評価アンケート」から「授業改善アンケート」に変更しました。具体的な変更点は以下の通りです。

①質問項目が大幅に増え、授業改良に資する項目が増えています。全体で従来の21の質問項目から29の質問項目へ増やし、「履修動機についての質問」「学生自身の授業への取り組み」「授業への評価」「授業から得られた達成度」「総合的評価」「記述回答」の6つのカテゴリーに分けました。各教員がそれぞれに、また、学部全体として、アンケート調査を分析的に検討しやすいようにしました。

- ②従来、13～14週目の講義終了間際の10分間に行っていましたが、授業開始直後15分を使用します。教員はアンケート実施中に退席することなく、学生の真剣な取り組みを促します。学生にとっては、「ふりかえり」という教育的な意義があります。教員の側としては、しっかりとした記述回答の時間を学生に保障し、よりよい改善のための資料をえようとする意図があります。
- ③授業改善アンケートの数値的評価、記述によるコメントは、各授業ごとに、学内HPで公表し、担当教員の改善に向けてのコメントを付します(コメントは200字以内)。アンケート結果の具体的な公表とそれへの教員のコメントを目にすることで、学生たちは、自らのコメントが授業改善に生かされることを自覚し、より真剣にアンケートに答えることになるでしょう。また教員は、自らの授業への説明責任を果たす機会を得ることができます。さらに公表された授業改善アンケートはシラバスとともに次学期以降の学生の授業選択の材料となります。

リニューアルした質問項目の意図を以下に説明します。

履修動機について(質問 1)

この質問は、「履修者数」「回答者数」と照らし合わせて、当該クラスの履修者の状況を把握することが目的です。授業者が個々の質問項目への回答を検討する際に必要なデータとなります。具体的には次のような質問です。

質問1 履修動機 3つを選択せよ

- ①授業内容に関心があったから ②教員に魅力があったから ③単位がとりやすそうだから ④友だちが多く履修しているから ⑤自分の専門に関係が深い分野だから ⑥幅広い教養を身につけるため ⑦先輩に勧められたから ⑧希望授業が取れなかったので仕方なく ⑨必修(あるいは免許取得に必要)だから ⑩その他

I. 学生自身の授業への取組(質問2～6)

従来の授業評価アンケートは、教師の授業を学生が評価する、という意味合いを有していました。しかし、授業とは教師と学生とがともに創り上げるものであり、学生自身の取り組みもまた自省されなくてはなりません。また、どれほど積極的な学びを促すことができたかを教師は確認しなくてはなりません。具体的には次のような質問を用意しました。質問のあとに選択肢が示されていない限り、「①そう思わない ②あまりそう思わない ③どちらともいえない ④そう思う ⑤大いにそう思う ⑥質問がこの授業に該当しない」という評価です。

質問2	欠席回数	(①4回以上 ②3回 ③2回 ④1回 ⑤皆出席)
質問3	真面目に授業参加	
質問4	事前準備	
質問5	発展的学習	

質問 6	週平均の授業時外学習時間 (①ほぼ0時間 ②1時間未満 ③1～2時間 ④2～3時間 ⑤3時間以上)
------	--

II. 学生による教員への授業評価 (質問 7～19)

この質問群では、狭義の授業評価アンケートといえるもので、教員の授業技術、方法、内容などの具体的な事柄を問うています。教師は改善点を見出すことができます。具体的には次のような質問を用意しました。

質問 7	聞きやすい話し方
質問 8	各回の授業内容の量が適切だった
質問 9	各回の授業内容は明確だった
質問 10	授業を乱す行為への対応
質問 11	教科書は妥当であった
質問 12	補助教材は効果的であった
質問 13	板書の仕方 (パワーポイントなど)
質問 14	講義法以外の教授法 (討論・発表など)
質問 15	教員の授業準備
質問 16	宿題・課題など (①多すぎる ②すこし多い ③適切である ④すこし少ない ⑤少なすぎる)
質問 17	クラスの規模 (受講学生数) (①多すぎる ②すこし多い ③適切である ④すこし少ない ⑤少なすぎる)
質問 18	成績評価の基準の明確
質問 19	授業実施教室は適切か

III. 授業を受けて得たもの (質問 20～22)

この質問群では、学生がこの授業をうけて得たものを確認します。学生の達成度に関わる質問です。また、大学の授業において、学問的知識、専門的な知識、新しい考え方などを獲得することは重要です。分かりやすい授業を目指すと同時に、高い専門性等を維持することが大学の教師には求められています。以下の質問項目を用意しました。

質問 20	新しい考え方・発想/能力の向上
質問 21	基本的な専門知識
質問 22	意見をまとめて他者に伝える技術

IV. 授業の総合的な評価 (質問 23～26)

この質問群では、これまでの質問群を踏まえたうえで、授業の総合的な評価を行います。数値による総括的な評価となります。しかし、ここで留意しなくてはならないことは、数値による授業評価が、教員評価、教員管理に容易に流用されかねない恐れです。

大学の授業は、学生に分かりやすく行われるべきものですが、それと同時に学問的・専門的知見に基づき行われるものです。学生に対して迎合的であってもいけません。あくまでもこの種のアンケートは教師個々人の授業改善を目的にして行われるべきです。各教師の自省と研鑽と自己管理の材料として活用されるべきものです。その意味で、次の「記述による評価」と合わせて検討されるべきものです。具体的な質問項目は次の通りです。

質問 23	この授業で、自分自身が成長できた
質問 24	学問的・専門的興味をかきたてられた
質問 25	わかりやすい授業だった
質問 26	この授業を受けて満足した

記述による評価

数値による評価は比較を行う際や、全体を俯瞰する際には有効ですが、記述による評価の方が、授業改善には有効です。学生たちに、記述をより具体的に行ってもらえるように、アンケート時間を10分から15分に伸ばし、授業終了後から授業開始直後に行うようにしました。ひとつひとつのコメントを丁寧に検討し、授業改善につなげていきたいと思えます。具体的には以下の質問項目を用意いたしました。

質問 27	この授業で良いと思ったこと
質問 28	この授業で改善すべきだと思った点
質問 29	教員が用意した質問

大きな改善点は、記述スペースを広くした点と、「教員が用意した質問」を加えた点、「学長へ（聞いてほしいこと）」という箇所を削除した点です。前二者に関しては、よりよい授業の改善の資料を得ようとする意図だと容易にご理解いただけたと思います。後者に関しては、授業評価アンケートを、教員管理よりも授業改善に力点を置こうとする今回のリニューアルの理念に関わるものです。他者からの管理よりも、教員の自己管理に重点を置きました。自己管理には説明責任は求められます。学生のコメントへのプライがそれにあたります。

2 学生による授業改善アンケート結果の概要

授業改善アンケートは、基本的に各教師と生徒たちの対話に基づく授業改善の材料を提供するものです。よって各教師の検討と分析が求められるものです。その内容に関しては、「記述による評価」や「授業改善アンケートへの教員コメント」を参照いただきたいと思います。

しかし、数量的なデータを俯瞰することにより、学部全体での課題がみえてくるものでもあります。全体的な統計にそぐわない質問項目もありますが、全体の平均値や、選択肢の選択率を示し、若干の考察を加えたいと思えます。

質問項目	度数	平均値
質問1 履修動機(3つまで) (①授業内容に関心があったから ②教員に魅力があったから ③単位がとりやすそうだから ④友だちが多く履修しているから ⑤自分の専門に関係が深い分野だから ⑥幅広い教養を身につけるため ⑦先輩に勧められたから ⑧希望授業が取れなかったから仕方なく ⑨必修(あるいは免許取得に必要)だから ⑩その他)	6260	-
質問2 欠席回数 (①4回以上 ②3回 ③2回 ④1回 ⑤皆出席)	2530	3.18
質問3 真面目に授業参加	2512	4.17
質問4 事前準備	2537	3.89
質問5 発展的学習	2520	3.79
質問6 週平均の授業時外学習時間 (①ほぼ0時間 ②1時間未満 ③1~2時間 ④2~3時間 ⑤3時間以上)	2532	-
質問7 聞きやすい話し方	2536	4.41
質問8 各回の授業内容の量が適切だった	2527	4.43
質問9 各回の授業内容は明確だった	2535	4.47
質問10 授業を乱す行為への対応	2530	4.40
質問11 教科書は妥当であった	2504	-
質問12 補助教材は効果的であった	2523	-
質問13 板書の仕方(パワーポイントなど)	2481	4.39
質問14 講義法以外の教授法(討論・発表など)	2516	-
質問15 教員の授業準備	2511	4.56
質問16 宿題・課題など (①多すぎる ②すこし多い ③適切である ④すこし少ない ⑤少なすぎる)	2516	3.08
質問17 クラスの規模(受講学生数) (①多すぎる ②すこし多い ③適切である ④すこし少ない ⑤少なすぎる)	2531	3.01
質問18 成績評価の基準の明確	2533	4.28
質問19 授業実施教室は適切か	2530	-
質問20 新しい考え方・発想/能力の向上	2524	4.29
質問21 基本的な専門知識	2520	4.23
質問22 意見をまとめて他者に伝える技術	2513	-
質問23 この授業で、自分自身が成長できた	2526	4.26
質問24 学問的・専門的興味をかきたてられた	2526	4.24
質問25 わかりやすい授業だった	2528	4.36
質問26 この授業を受けて満足した	2524	4.43

上記の表では、設問毎の平均値等を掲げました。質問6、質問16、質問17の選択

肢は表中に記してあります。それ以外の選択肢は、「①そう思わない ②あまりそう思わない ③どちらともいえない ④そう思う ⑤大いにそう思う」です。質問11、質問12、質問14、質問22には「⑥質問がこの授業に該当しない」の選択肢が付加されています。平均値を表すのに不適切な質問1、質問6、質問11、質問12、質問14、質問22には表中に「-」を記入しました。

また、以下に各質問の選択肢の選択率のグラフを示します。比率の表記は少数点第一位を四捨五入した形で示す。また、欠損値を除いた有効パーセントで示す。

この数値を前回調査値と比較すると大きな改善がみられることが分かる。平均値を算出した質問項目19のうち、17項目で数値に改善が確認されている。以下の項目である。

- 質問3 真面目に授業参加、
- 質問4 事前準備
- 質問5 発展的学習
- 質問6 週平均の授業時外学習時間
- 質問7 聞きやすい話し方
- 質問8 各回の授業内容の量が適切だった
- 質問9 各回の授業内容は明確だった
- 質問10 授業を乱す行為への対応
- 質問11 教科書は妥当であった
- 質問12 補助教材は効果的であった
- 質問13 板書の仕方（パワーポイントなど）
- 質問14 講義法以外の教授法（討論・発表など）
- 質問15 教員の授業準備
- 質問17 クラスの規模（受講学生数）
- 質問18 成績評価の基準の明確
- 質問19 授業実施教室は適切か
- 質問20 新しい考え方・発想／能力の向上
- 質問21 基本的な専門知識
- 質問22 意見をまとめて他者に伝える技術
- 質問23 この授業で、自分自身が成長できた
- 質問24 学問的・専門的興味をかきたてられた
- 質問25 わかりやすい授業だった
- 質問26 この授業を受けて満足した

逆に、前回調査時よりも悪化した質問項目は2つあり、以下の通りである。

- 質問2 欠席回数
- 質問16 宿題・課題など

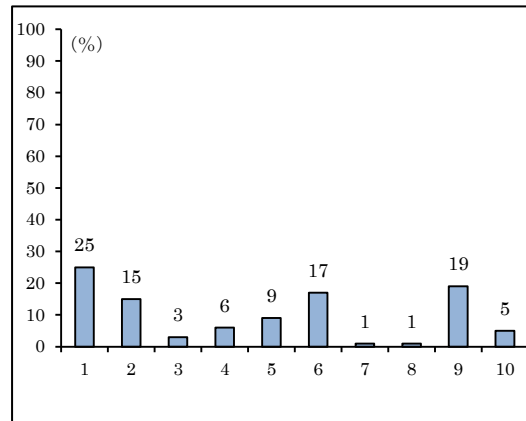
一般的に授業改善がなされたと言えるであろう。具体的な分析は、質問項目のグラフを検討しながら行いたい。

履修動機について（質問 1）

質問 1 この授業を履修した動機を最も適切なものを3つ選択して下さい。

- ①授業内容に関心があったから
- ②教員に魅力があったから
- ③単位がとりやすそうだから
- ④友だちが多く履修しているから
- ⑤自分の専門に関係が深い分野だから
- ⑥幅広い教養を身につけるため
- ⑦先輩に勧められたから
- ⑧希望授業が取れなかったので仕方なく
- ⑨必修（あるいは免許取得に必要）だから
- ⑩その他

質問 1 履修動機



履修動機について、最も多いのは「①授業内容に関心があったから」（25%）であり、「⑨必修（あるいは免許取得に必要）だから」（19%）、「⑥幅広い教養を身につけるため」（17%）、「②教員に魅力があったから」（15%）とつづく。必修であるからという理由が19%あるものの、主体的な選択により、学生が授業選択を行っていると言えるでしょう。また、「③単位がとりやすそうだから」（3%）、「⑧希望授業が取れなかったので仕方なく」（1%）といった安易な選択ではなく、積極的な姿勢での授業選択がなされていることがわかります。

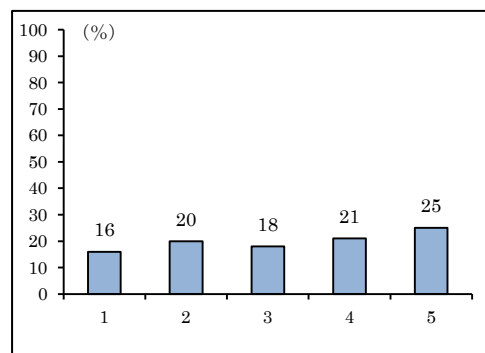
履修動機については、前回調査時と大きな差異は確認できない。2014年度入学生（現1年次生）以降、学生の授業選択の自由度がまたカリキュラムが導入されていることもあり、今後の選択理由の変化が注目される。

I. 学生自身の授業への取組（質問 2～6）

質問 2 授業全体を通じての欠席回数は何回くらいですか。

- ①4回以上
- ②3回
- ③2回
- ④1回
- ⑤皆出席

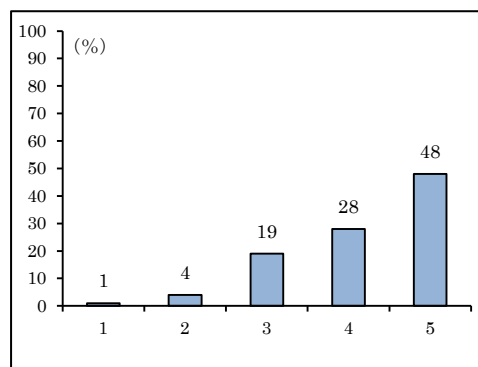
質問 2 欠席回数 < 平均値 3.18 >



質問3 私語・居眠りなどせずに真面目に授業に参加した。

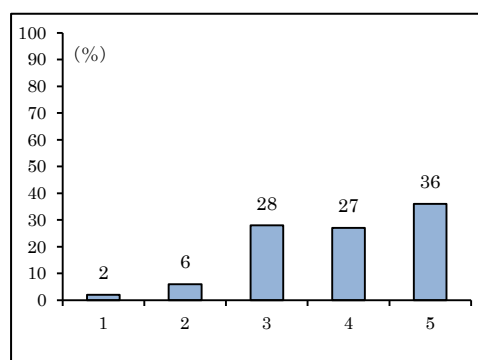
- ① そう思わない
- ② あまりそう思わない
- ③ どちらともいえない
- ④ そう思う
- ⑤ 大いにそう思う

質問3 真面目に授業参加 < 平均値 4.17 >



質問4 この授業の履修にあたって十分な準備ができていた（どのような授業か調べて履修したか、自分の学力レベルにあっているかを確認したか、など）

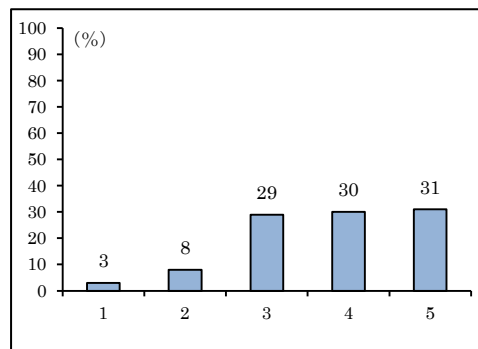
質問4 事前準備 < 平均値 3.89 >



質問5 授業をきっかけにして自分自身で発展的な学習をした

- ① そう思わない
- ② あまりそう思わない
- ③ どちらともいえない
- ④ そう思う
- ⑤ 大いにそう思う

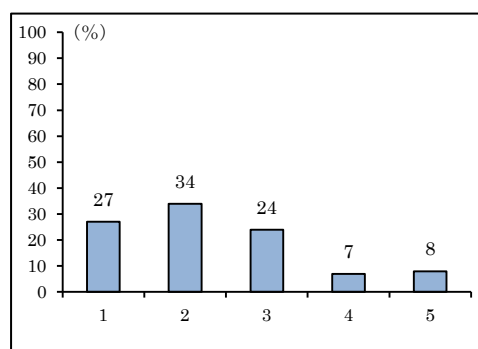
質問5 発展的学習 < 平均値 3.79 >



質問6 この授業に関連して、授業時以外に学習した時間（平均して1週間で）

- ① ほぼ0時間
- ② 1時間未満
- ③ 1～2時間
- ④ 2～3時間
- ⑤ 3時間以上

質問6 週平均の授業時外学習時間 < 平均値 - >



まず、質問2の欠席回数についてだが、「⑤皆出席」が25%でトップであり、「①4回以上」が16%、「3回」が20%という数値をどのように評価すべきかは難しいですが、調査実施の13週および14週目でこの数値ですので、15（16）回終了時点で若干の増加が予想されます。学生の中には、3分の2以上出席さえすれば単位取得が可能であると考える者が一定数いるのではないかと推測される。前回調査時では、平均値が3.45であったのに対して、今回は3.18と若干低下しており、欠席頻度の若干の上昇が確認できる。

質問3の真面目に授業参加は、「⑤大いにそう思う」（48%）、「④そう思う」（28%）といった肯定的評価が76%を占めている。また、質問5の発展学習を行ったかに関しても、「⑤大いにそう思う」（31%）、「④そう思う」（30%）を合わせると過半数を超えています。これらから、学生自身による授業姿勢への高い評価が確認できる。

しかし、午前中の授業への遅刻が目立つという報告が学科会・教授会にあったことや、欠席頻度の上昇と考え合わせると、この数字を額面通り受け取っていいものか躊躇する思いがあります。

さらに、質問6の週平均の授業外の学習時間をみると、このような学生自身の自己評価が妥当なものであるかが疑わしく思われる。授業以外での学習時間が「①ほぼ0時間」の学生が27%、およそ4人に1人おり、「②1時間未満」（34%）とあわせて61%を占めている。昨年度に比べ大きな変化は確認できない。一般に大学教育においては、1コマ90分の授業に対し3時間の週当たりの授業外学習を前提としています。それをクリアする学生は、8%（「⑤3時間以上」）であり、1割にも満たない数です。1コマ90分の授業に対して3時間の週当たりの授業外学習という前提自体が大学生の実態にそぐわないという指摘はあるものの、本調査のデータで示された半数以上が1時間未満であるという数値の低さは際立っていると思います。特に語学習得を大きな柱とする学部においてはゆゆしい問題ではないでしょうか。

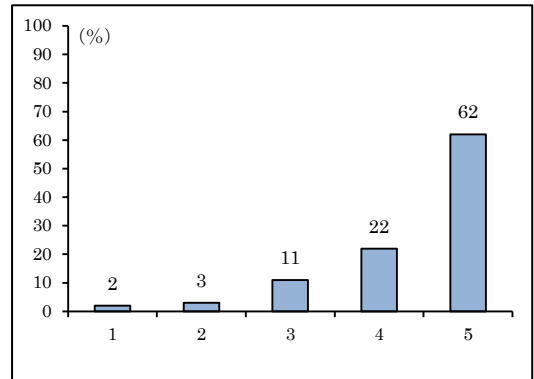
これらを合わせ総括すると、学生自身による学びの自己評価は高いものの、予習・復習・発展的な学習の時間的な裏付けを書いた自己評価であるといえるかもしれません。授業にまじめに出席していれば、それで充分であるという気持ちが学生の中にあるのではないのでしょうか。自律的な学習者への成長を促すことが、学部としての課題といえるでしょう。

Ⅱ.学生による教員への授業評価（質問7～19）

質問7 聞きやすい話し方だった（スピード・音量・
マイクなども含む）

- ① そう思わない
- ② あまりそう思わない
- ③ どちらともいえない
- ④ そう思う
- ⑤ 大いに思う

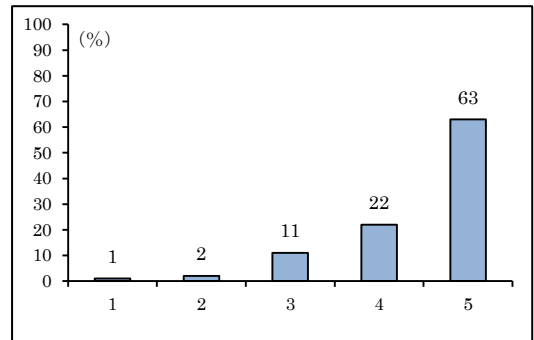
質問7 聞きやすい話し方 < 平均値 4.41 >



質問8 各回の授業内容の量が適切だった

- ① そう思わない
- ② あまりそう思わない
- ③ どちらともいえない
- ④ そう思う
- ⑤ 大いに思う

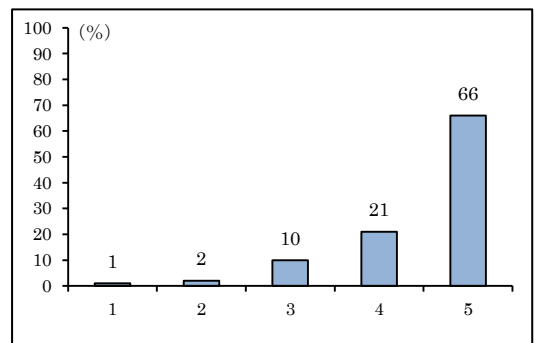
質問8 各回の授業内容の量が適切だった
< 平均値 4.43 >



質問9 各回の授業内容は明確だった

- ① そう思わない
- ② あまりそう思わない
- ③ どちらともいえない
- ④ そう思う
- ⑤ 大いに思う

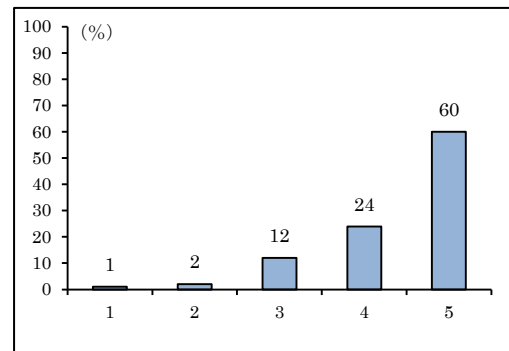
質問9 各回の授業内容は明確だった
< 平均値 4.47 >



質問 10 教員は授業を乱す行為（私語・携帯電話・メール・居眠り・中座等）に対して適切な対応をした

- ① そう思わない
- ② あまりそう思わない
- ③ どちらともいえない
- ④ そう思う
- ⑤ 大いにそう思う

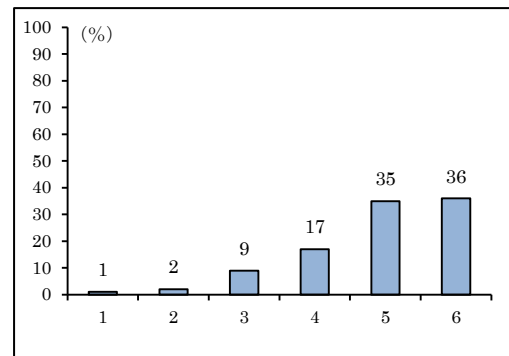
質問 10 授業を乱す行為への対応
 < 平均値 4.40 >



質問 11 教科書（難易度・使用頻度など）は妥当であった

- ① そう思わない
- ② あまりそう思わない
- ③ どちらともいえない
- ④ そう思う
- ⑤ 大いにそう思う
- ⑥ 質問がこの授業には該当しない

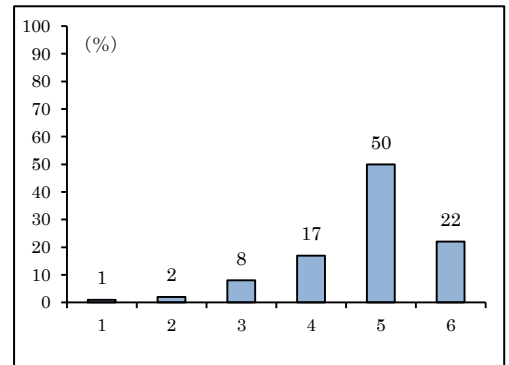
質問 11 教科書は妥当であった
 < 平均値 - >



質問 12 補助教材（授業プリント・視聴覚教材）は効果的であった

- ① そう思わない
- ② あまりそう思わない
- ③ どちらともいえない
- ④ そう思う
- ⑤ 大いにそう思う
- ⑥ 質問がこの授業には該当しない

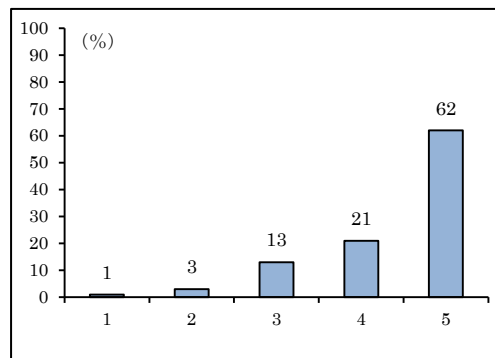
質問 12 補助教科書は効果的であった
 < 平均値 - >



質問 13 板書の仕方（あるいはパワーポイントなど）は適切だった

- ① そう思わない
- ② あまりそう思わない
- ③ どちらともいえない
- ④ そう思う
- ⑤ 大いに思う

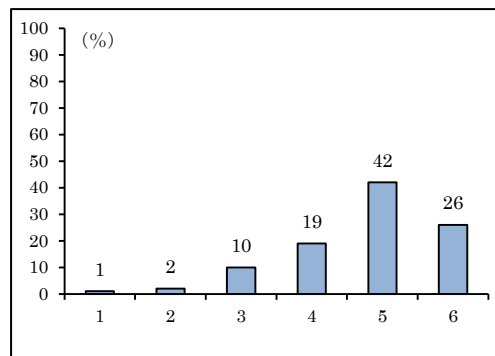
質問 13 板書の仕方（パワーポイントなど）
 < 平均値 4.39 >



質問 14 教員は説明中心な講義法以外の教授法（討論・発表など）を必要に応じて適切に用いていた

- ① そう思わない
- ② あまりそう思わない
- ③ どちらともいえない
- ④ そう思う
- ⑤ 大いに思う
- ⑥ 質問がこの授業には該当しない

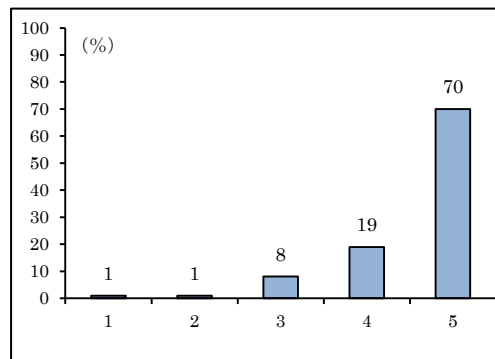
質問 14 講義法以外の教授法（討論・発表など）
 < 平均値 - >



質問 15 教員は授業の準備を周到に行っていた

- ① そう思わない
- ② あまりそう思わない
- ③ どちらともいえない
- ④ そう思う
- ⑤ 大いに思う

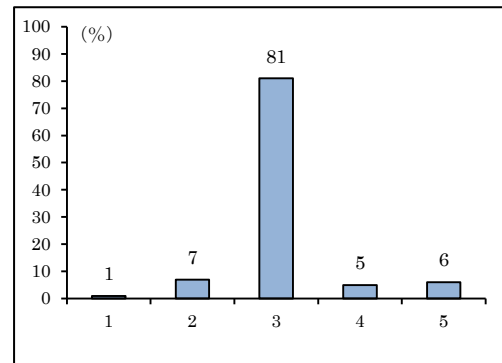
質問 15 教員の授業準備 < 平均値 4.56 >



質問 16 宿題・課題など授業外に必要な学習の時間
や量は適切だったか

- ①多すぎる
- ②すこし多い
- ③適切である
- ④すこし少ない
- ⑤少なすぎる

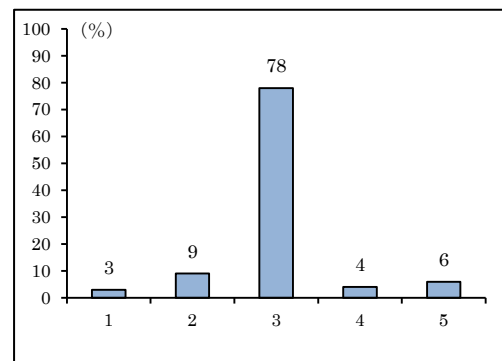
質問 16 宿題・課題など < 平均値 3.08 >



質問 17 クラスの規模 (受講学生数) は適切だった
か

- ①多すぎる
- ②すこし多い
- ③適切である
- ④すこし少ない
- ⑤少なすぎる

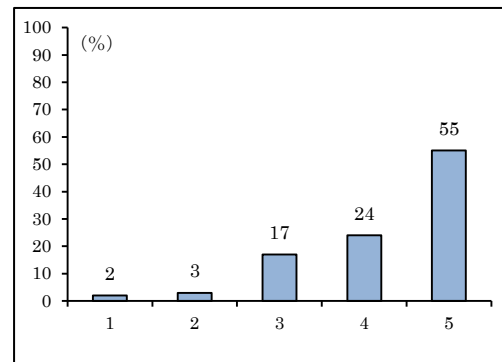
質問 17 クラスの規模 (受講学生数)
< 平均値 3.01 >



質問 18 成績評価の基準を明確に示していたか

- ①そう思わない
- ②あまりそう思わない
- ③どちらともいえない
- ④そう思う
- ⑤大いにそう思う

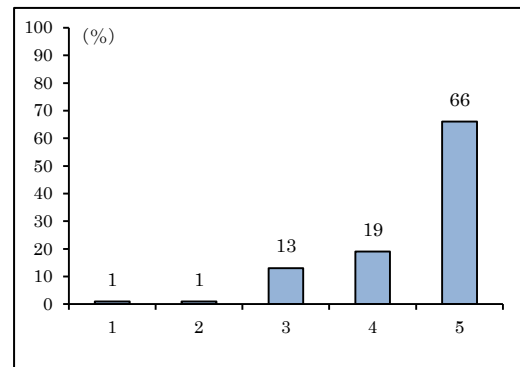
質問 18 成績評価の基準の明確
< 平均値 4.28 >



質問 19 授業実施教室（広さ・明るさ・設備・視聴覚機器の配置）は適切であったか。

- ①そう思わない
- ②あまりそう思わない
- ③どちらともいえない
- ④そう思う
- ⑤大いにそう思う

質問 19 授業実施教室は適切か
 < 平均値 - >



狭義の意味での授業評価に関する本質問群では、教師の指導技術・方法、教育環境などを問うています。質問 7 の「聞きやすい話し方」、質問 8 の「各回の授業内容の量」、質問 9 の「各回の授業内容は明確だったか」、質問 10 の「授業を乱す行為への対応」、質問 13 の「板書の仕方（パワーポイントなど）」、質問 15 の「教員の授業準備」は、80%前後の学生が「⑤大いにそう思う」と「④そう思う」を選んでおり、高評価であるといえるでしょう。

しかし、質問 16 の「宿題・課題などの量」に関して 81%の学生が「③適切である」としている点は検討が必要でしょう。質問 6 の週平均の授業外の学習時間が「①ほぼ 0 時間」の学生が 27%、およそ 4 人に 1 人おり、「② 1 時間未満」（34%）とあわせて 61%であることと考え合わせると、学生の学力向上にとって、ほんとうに適切な量であるのかを検討しなくてはならないでしょう。

また、質問 18 の「成績評価の基準の明確さ」に関しては、「⑤大いにそう思う」が 55%、「④そう思う」が 24%であり決して悪い数値とはいえませんが、自立的な学習者の育成という観点から、シラバスへの明記や開講時に学生に周知徹底するなどの努力が必要といえるでしょう。「①そう思わない」「②あまりそう思わない」「③どちらともいえない」を合わせて 22%であるが、それらの数値が限りなくゼロの近づける必要があるでしょう。

教育環境として、質問 17 の「クラスの規模」は 78%の学生が「③適切である」と考えており、質問 19 の「授業実施教室の適切さ」は 85%の学生が「④そう思う」「⑤大いにそう思う」と回答しており、大きな問題はないように見受けられる。今後とも教務と連携し、適切な学生数配置、適切な教室配置に努めたいと思います。

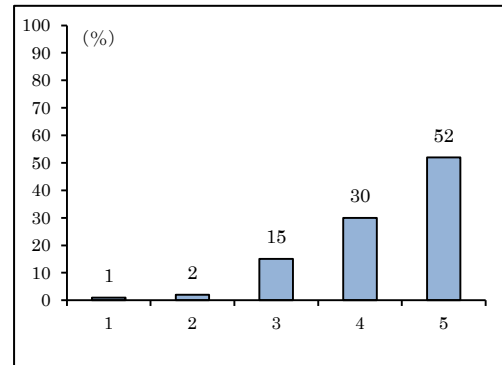
本質問群「Ⅱ. 学生による教員への授業評価（質問 7～19）」では、前回調査時と比べて、「質問 16 宿題・課題など」で若干の悪化はあったものの、他の質問では改善したと言える。これが、授業評価アンケートから授業改善アンケートへの制度改革によるものとはいきれないものの、それも要因の一つであったといえるでしょう。

Ⅲ.授業を受けて得たもの（質問20～22）

質問20 新しい考え方・発想を獲得した／今まで持っていた能力を向上できた

- ① そう思わない
- ② あまりそう思わない
- ③ どちらともいえない
- ④ そう思う
- ⑤ 大いに思う

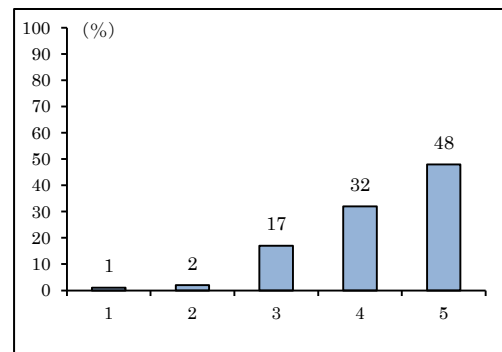
質問20 新しい考え方・発想/能力の向上
 < 平均値 4.29 >



質問21 授業で扱った分野に関する基本的な専門知識を得ることができた。

- ① そう思わない
- ② あまりそう思わない
- ③ どちらともいえない
- ④ そう思う
- ⑤ 大いに思う

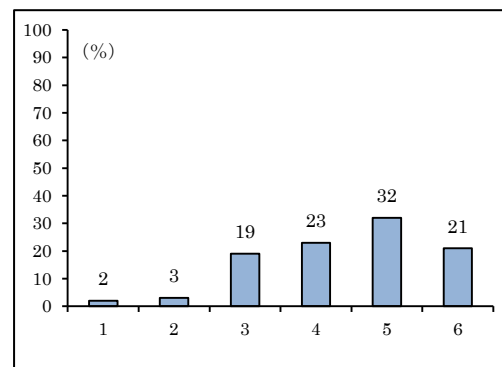
質問21 基本的な専門知識
 < 平均値 4.23 >



質問22 自分の意見をまとめて他者に伝える技術（発表・レポート）を得ることができた。

- ① そう思わない
- ② あまりそう思わない
- ③ どちらともいえない
- ④ そう思う
- ⑤ 大いに思う

質問22 意見をまとめて他者に伝える技術
 < 平均値 - >



学生の達成度に関する質問群ですが、おおむね高評価といえるでしょう。質問20の「新しい考え方・発想／能力の向上」、質問21の「基本的な専門知識」、質問23の「意見をまとめて他者に伝える技術」に関しても、おおむね良好であると言えるでしょう。両質問とも「①そう思わない」「②あまりそう思わない」といった否定的な自己評価は3～5%しかありません。昨年度に比べて、「問20」「問21」の「⑤大いに思う」の割合が向上している。

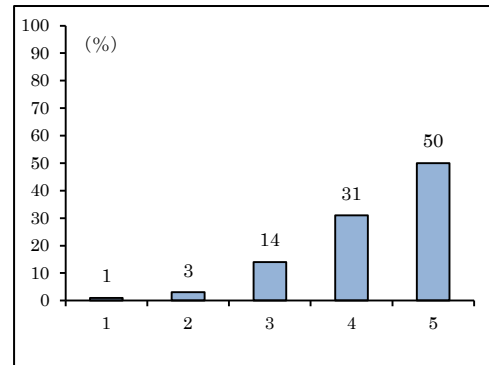
前回、学生の教員評価の高さに比して、自己評価が低いのではないかという懸念があったが、その点、若干の改善が見られたといえよう。

IV.授業の総合的な評価（質問23～26）

質問23 この授業をつうじて、自分自身が成長できた

- ① そう思わない
- ② あまりそう思わない
- ③ どちらともいえない
- ④ そう思う
- ⑤ 大いに思う

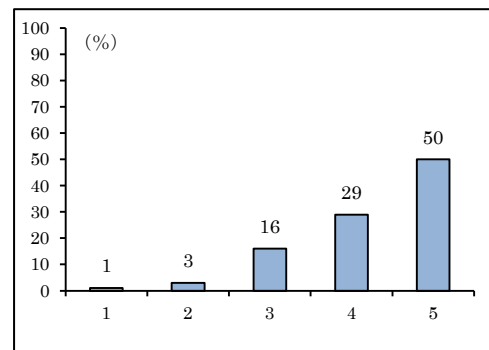
質問23 この授業で、自分自身が成長できた
〈 平均値 4.26 〉



質問24 学問的・専門的興味をかきたてられた

- ① そう思わない
- ② あまりそう思わない
- ③ どちらともいえない
- ④ そう思う
- ⑤ 大いに思う

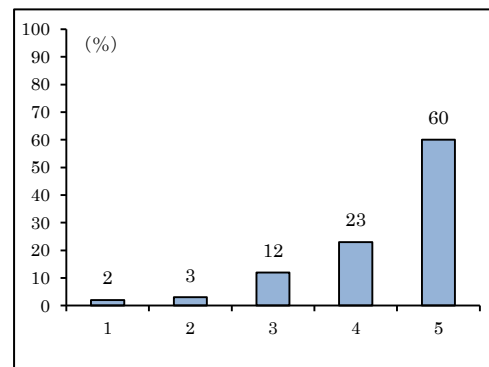
質問24 学問的・専門的興味をかきたてられた
〈 平均値 4.24 〉



質問25 わかりやすい授業だった

- ① そう思わない
- ② あまりそう思わない
- ③ どちらともいえない
- ④ そう思う
- ⑤ 大いに思う

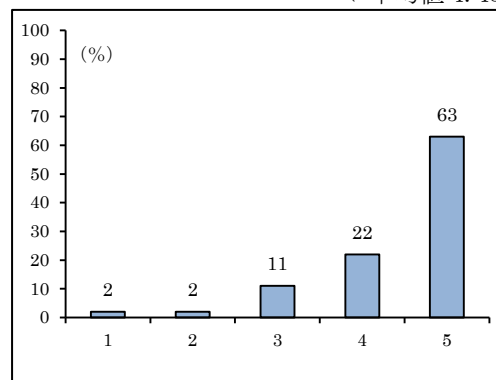
質問25 わかりやすい授業だった
〈 平均値 4.36 〉



質問 26 この授業を受けて満足した

- ① そう思わない
- ② あまりそう思わない
- ③ どちらともいえない
- ④ そう思う
- ⑤ 大いに思う

質問 26 この授業をうけて満足した
〈 平均値 4.43 〉



「IV授業の総合的な評価」においても数値は向上し、授業が改善されたことを示している。前回調査時に比べ、4質問項目の平均値が全て上がっているだけでなく、「⑤大いに思う」の比率も4質問項目すべてで向上している。「質問23」が42%から50%へ、「質問24」42%から50%へ、「質問25」が50%から60%へ、「質問26」が54%63%への向上であった。いずれの質問も「①そう思わない」「②あまりそう思わない」といった否定的な評価は、4～5%であり、大きな問題はないといえよう。

しかし、質問25の「分かりやすい授業だった」について「⑤大いに思う」という教員への評価が60%であり、質問26の総合的な満足度も63%の学生が「大いに思う」を選択しているのに比べ、学生の自己評価に関する質問23の「この授業で、自分自身が成長できた」および質問24の「学問的・専門的興味をかきたてられた」で「⑤大いに思う」が50%と低い傾向にあります。

これらのことをトータルに考え合わせれば、次のように言えるかもしれません。全般的に、学生たちは教師に高い評価を与え、授業の満足度も高いが、それに比べて授業で得た達成度は若干低めであり、その要因は授業外における学習時間の少なさであるといえる。授業にまじめに参加していることだけで学力向上が図れるという考えを持ってしまっているのではないのでしょうか。学生の自己満足度を高めるためには、予習・復習時間の多くの時間を割き、それにもとづく自信を獲得することが必要といえるでしょう。

このような分析は昨年度と同様である。私たち学部としては、授業外での学生の自己学習を促すことが必要であり、それに基づく学生たちの高い達成感の獲得を支援することといえるでしょう。

2 自由記述による評価（改善点を中心に）

自由記述による授業評価は、①授業の良い点、②改善してほしい点、③教員が用意した質問の3つの設問から構成されています。大きな改善点は、記述スペースを広くした点と、「教員が用意した質問」を加えた点、「学長へ（聞いてほしいこと）」という箇所を削除した点です。前二者に関しては、よりよい授業の改善の資料を得ようとする意図

だと容易にご理解いただけるとと思いますが、後者に関しては、授業評価アンケートを、教員管理よりも授業改善に力点を置こうとする今回のリニューアルの理念に関わるものであり、若干の説明が必要です。

もちろん授業・教員の管理は必要なことですが、それは一義的に教員による自己管理でなくてはなりません。教員は、自身の教育実践に対して説明責任を果たさなくてはなりません。それで、学生によるコメントだけでなくアンケートの数値に関しても、教員の応答コメントとともに、学内HPに公開することにしました。教員にとっては、学生・同僚の目に授業改善アンケートの数値・コメントがさらされることにより、今まで以上に説明責任を強く感じることでしょう。教員による自己管理、授業改善の努力を促すようなシステムへと転換したといえるでしょう。

もちろんアカデミックハラスメントなどの対応は、教員の自己管理を超えて、管理職により、またそれに対応する委員会などが迅速に行わなくてはなりません。しかし授業改善アンケートの一義的な目的は教員による授業改善の努力を促すことでなくてはなりません。

学生からの記述によるコメントの中には、少数ながら教員への礼を失する内容もあり、誹謗中傷にあたるものに関しては、企画推進課および学部長・学科長の判断で削除したものもあります。これら不適切なコメントを行った学生に関しても、学内HPで他の学生のコメントと自身のそれとを見比べることで反省することが期待できます。

公開される本冊子においては、教員名は教員コードに書き変えてあります。

個々の記述内容、および教員の改善に向けてのコメントは、第2章に掲載してあります。教員と学生との対話をご確認いただきたいと思います。

おわりに

「授業評価の概要」でアンケート数値から推測できる本学部の課題については述べたので、ここでは、リニューアルされた授業改善アンケートの実施に関して数点の課題をあげたいと思います。

まず、今回のリニューアルは大きな改定であるので、その理念、趣旨を全ての教員及び学生に周知徹底できていない点です。何らかの理由で僅少なながら「授業改善アンケート結果への教員コメント」にご協力いただけなかった教員もおります（113クラス中4クラス、回収率96%）。その意義を丁寧にご説明し、ご協力をいただけるようにしたいと思います。そして学生に対しても、公開された結果を確認してもらいたいと思います。

また、アンケート結果公開の遅れがあげられます。アンケート実施後、教員へのアンケート結果の配布に2カ月を要し、学生へのリプライの公開に4カ月以上の時間をおいてしまった点が改善されなくてはなりません。教育評価は即座に行われるべきであり、時間がたつにつれてその効果が低減するものです。それは学生に対しても教員に対して

も当てはまります。迅速な学生へのリプライが可能なように企画推進課、学部長、学科長と連携していきたいと思えます。

さらに、授業改善アンケートの数値的な分析をより有効にするために、全体での数値だけでなく、クラスターごと、科目群ごとのデータの提供が求められます。データ入力業者との調整を行ったほうがよいと思えます。ただし、それについてはさらなる経費がかかるということですので、将来的な課題となるでしょう。

リニューアルされた授業改善アンケートが、個々の教員の授業改善の材料となり、学部の教育力の向上に繋がることを願ってやみません。

沖縄キリスト教学院大学 授業改善アンケート

このアンケートは、沖縄キリスト教学院大学の授業を改善し、さらに充実させることを目的に行われます。アンケートは、適切に処理されたうえで各教員に配布され、各教員が生データを見ることはありませんので、あなたの成績評価に影響することはありません。大学を構成する重要な一員である学生として、皆さん自身が大学教育をより良いものにするという意識のもとに、率直かつ責任を持って回答して下さい。集計されたデータは、本学 HP で公表され、全学生・教職員が確認できます。また、教員からの全般的な応答も確認できます。他の学生の授業履修の参考材料にもなりますので責任を持った記述をお願いします。

<履修動機についての質問>

質問1 この授業を履修した動機を最も適切なものを3つ選択して下さい。	選択肢	
①授業内容に関心があったから	②教員に魅力があったから	1 2
③単位がとりやすそうだから	④友だちが多く履修しているから	3 4
⑤自分の専門に関係が深い分野だから	⑥幅広い教養を身につけるため	5 6
⑦先輩に勧められたから	⑧希望授業が取れなかったので仕方なく	7 8
⑨必修（あるいは免許取得に必要）だから	⑩その他	9 10

<数値による評価>

以下の項目に対して、あなたにとって5段階のどの評価であるか、評価欄のあてはまる数字に○をつけて下さい。

- ①そう思わない ②あまりそう思わない ③どちらともいえない ④そう思う ⑤大いにそう思う
⑥質問がこの授業には該当しない

I この授業へのあなたの取り組みについて、以下の項目にどの程度当てはまりますか。	評価欄
質問2 授業全体を通じての欠席回数は何回くらいですか ①4回以上 ②3回 ③2回 ④1回 ⑤皆出席	1 2 3 4 5
質問3 私語・居眠りなどせずに真面目に授業に参加した	1 2 3 4 5
質問4 この授業の履修にあたって十分な準備ができていた（どのような授業か調べて履修したか、自分の学力レベルにあっているかを確認したか、など）	1 2 3 4 5
質問5 授業をきっかけにして自分自身で発展的な学習をした	1 2 3 4 5
質問6 この授業に関連して、授業時以外に学習した時間（平均して1週間で） ①ほぼ0時間 ②1時間未満 ③1～2時間 ④2～3時間 ⑤3時間以上	1 2 3 4 5

II この授業の進め方などに関連して、以下の項目にどの程度当てはまりますか。	評価欄
質問7 聞きやすい話し方だった（スピード・音量・マイクなども含む）	1 2 3 4 5
質問8 各回の授業内容の量が適切だった	1 2 3 4 5
質問9 各回の授業内容は明確だった	1 2 3 4 5
質問10 教員は授業を乱す行為（私語・携帯電話・メール・居眠り・中座等）に対して適切な対応をした	1 2 3 4 5
質問11 教科書（難易度・使用頻度など）は妥当であった	1 2 3 4 5 6
質問12 補助教材（授業プリント・視聴覚教材）は効果的であった	1 2 3 4 5 6
質問13 板書の仕方（あるいはパワーポイントなど）は適切だった	1 2 3 4 5
質問14 教員は説明中心な講義法以外の教授法（討論・発表など）を必要に応じて適切に用いていた	1 2 3 4 5 6
質問15 教員は授業の準備を周到に行っていた	1 2 3 4 5
質問16 宿題・課題など授業外に必要な学習の時間や量は適切だったか ①多すぎる ②すこし多い ③適切である ④すこし少ない ⑤少なすぎる	1 2 3 4 5
質問17 クラスの規模（受講学生数）は適切だったか ①多すぎる ②すこし多い ③適切である ④すこし少ない ⑤少なすぎる	1 2 3 4 5
質問18 成績評価の基準を明確に示していたか	1 2 3 4 5
質問19 授業実施教室（広さ・明るさ・設備・視聴覚機器の配置）は適切であったか	1 2 3 4 5

Ⅲ この授業からあなたは次のものを得ることができたと思いますか。	評価欄
質問 20 新しい考え方・発想を獲得した／今まで持っていた能力を向上できた	1 2 3 4 5
質問 21 授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	1 2 3 4 5
質問 22 自分の意見をまとめて他者に伝える技術（発表・レポート）	1 2 3 4 5 6

Ⅳ 総合的に見て、この授業は以下の項目にどの程度あてはまりますか。	評価欄
質問 23 この授業を通じて、自分自身が成長できた	1 2 3 4 5
質問 24 学問的・専門的興味をかきたてられた	1 2 3 4 5
質問 25 わかりやすい授業だった	1 2 3 4 5
質問 26 この授業を受けて満足した	1 2 3 4 5

<記述による評価>

みなさん自身が授業をより良いものにするという意識のもと、率直かつ責任を持って記入して下さい。みなさんの回答は、教員が読み、授業改善の参考にします。無責任な誹謗中傷は厳に慎み、真摯な回答をお願いします。もちろん成績にはいっさい影響しません。

質問 27 この授業で良いと思ったことがあれば書いて下さい。

質問 28 この授業で改善すべきだと思った点があれば、実現可能な改善案を具体的に書いて下さい。

質問 29 教員が用意した質問【 】

科目名： _____ 学籍番号： _____ 学年 _____ 性別（男 女） 入試区分（一般 推薦 AO） _____